

7. 善福寺風致協会の活動の変遷についての研究

Study on the history of the Zenpukuji Scenic Beauty Association (1934~2000)

中島直人*・西村幸夫**・北沢 猛**・鈴木伸治***・遠藤 新**

Naoto Nakajima, Yukio Nishimura, Takeru Kitazawa, Nobuharu Suzuki and Arata Endo

The purpose of this paper is to clarify historical change of Zenpukuji Scenic Beauty Association. The results of this study are as follows;

Before the war, this association developed projects systematically. It preserved the significant area for scenic beauty, ensured bases for management and created new scenic beauty in cooperation with Tokyo Prefecture. It was economically independent on the profit of the boat service. After the war, its activity changed from creation of physical scenic beauty to uniting the neighborhood through events at the park. After sweeping revision of the articles, its activity is going to enter a new phase.

Keywords : Scenic district, Tokyo Prefecture, Association
風致地区、東京府、協会

1. はじめに

戦前、東京の風致地区には地元住民（主に地主層）を構成員とした社団法人風致協会が設立され、各風致地区の機能の発揚に貢献したことが知られている。風致協会の活動については幾つかの既往研究の中で紹介されているが、概略に留まっており、個々の協会の歴史の変遷に基づいた実証的な分析は未だ乏しく、その実態は明らかになっていない⁽¹⁾。又、協会の多くは戦後も存続し、現在でも二つの協会が活動を続けているが、その事実については知られておらず、現在までの長い営みを捉えた既往研究は存在しない。本稿は、これらの研究状況を踏まえ、個々の地域のまちづくりにおける風致協会という視座、更には都市計画の継続性、一貫性という問題意識のもと、現在も地域に密着した活動を続ける善福寺風致協会の戦前から現在に至るまでの活動の歴史の変遷を明らかにすることを目的とする。行政と民間とのパートナーシップや公園の自主管理、時間を要する地域の成熟化といった現在の都市計画への示唆を念頭に、善福寺風致協会の活動を実証的に考察・評価する。研究に際しては、善福寺風致協会自身がまとめた通史的資料である 3)、4)、及び 5)~9) 等の基本的文献資料の収集、善福寺風致協会に残存する各年度の「善福寺風致協会歳入歳出決算報告書」(戦前期)や「善福寺風致協会事業報告書」・「善福寺風致協会予算計画書」(主に昭和 50 年度以降)の整理分析、風致協会関係者へのインタビュー等を行った。

2. 風致協会の設立とその背景

(1) 風致地区における保勝会構想

風致地区における保勝会の構想は風致地区概念の基礎をつくった内務省技師北村徳太郎の論説に最初に登場する⁽¹⁰⁾。11) は風致地区計画に関する最初の本格的な論考の一編であるが、その中で既に保勝会の必要性が主張されている。更に 12) では具体的な定款例までが示されている。北村のこれらの論説に共通する考え方は、風致地区の目的は従来の保勝会の目指す「絶対保存」ではなく、新規建築等も容認した上での地区単位での「保全」であるために、一般民衆の自覚と理解を促進しなければ地区指定は実効を収め得ないというものであった。そして風致地区での保勝会の特徴として風致地区指定という法的根拠を強調し、保勝会という名に留まらない都市の美化運動、郷土扶育の担い手としての活動に期待をよせた。

(2) 風致協会設立と東京府

東京府の風致地区指定は明治神宮、武蔵稜と聖蹟関係が続いた後、昭和 5 年 10 月には第二次指定として善福寺風致地区他 4 地区、昭和 8 年 1 月には第三次指定として多摩川風致地区他 4 地区が、将来宅地化が予想される郊外部で指定された。風致協会はこうした地区指定の進展と併行して設立準備がなされ、昭和 7 年 12 月の江戸川風致協会を最初に次々と設立されていった⁽¹²⁾。その際に設立の中心的役割を担ったのは、府議会の重鎮であった内田秀五郎を中心とする各風致地区の地元有力者たちと、昭和 7 年 4 月に内務省より東京府土木部に移ってきていた造園技師水谷駿一である。水谷は北村の保勝会構想を基に設立の指導にあたる一方で、その背景として風致地区枢要部の公園化を中心とする東京府の風致地区改善の計画論を展開した⁽¹³⁾。水谷が「・・・しか

* 学生会員 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 (Univ. of Tokyo) ** 正会員 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 (Univ. of Tokyo) *** 正会員 関東学院大学工学部土木工学科 (Kanto-Gakuin Univ.)

しこれらの事業を挙げて行政官庁、行政庁の施行に委ねることは事実上不可能である。・・もしこの行政庁にあらざる者が強固なる素地に結成せられたる公益団体であったならば、関係事業者からの援助を容易に受け得るの途も考察せられ、開発改善事業の施行上に幾多の便益があるところである。素より風致地区は風致地区の全区域を公園の如く公用徴収によって公園の施設を施行するものでは決してないのである。従って風致地区に対する開発改善の諸事情は、夫々所管するところの行政庁、又は公共団体を統轄する行政庁に於いて執行すると共に、行政庁に非ざる者をして執行せしむるのである。」¹³⁾としているように、規制に留まらず積極的な改善事業を目指した東京府は、公園化に対する府予算の不足、風致地区の大部分が民有地であるという事情から、地元住民による協力団体の設立に力を入れたと考えられる¹⁴⁾。

3. 戦前の善福寺風致協会

(1) 善福寺風致協会の設立過程

善福寺風致協会設立の具体的な準備は昭和8年11月の設立有志懇談会から始まり、12月には内田秀五郎他10名を設立発起人に設立認可申請書が提出された。許可には時間がかかり、翌年10月2日になって東京府に認可された。11月18日には創立総会が開催され、初年度の歳入歳出予算が早速議定された。東京の風致協会の提唱者内田の地元ではあったが、設立順では第7番目の風致協会であった。会長には内田が就任した。

(2) 善福寺風致協会の活動財源と会員数

協会の各年度の歳入決算額は図-1のとおりである。昭和9年の設立以降、順調に歳入規模を拡大させていった様子がわかる。その内訳を見ると、会費収入、補助金(東京府及び杉並区)の額は戦前期を通じてほぼ毎年一定であり、当初はこの二つが大きな収入源となっていた。しかし、事業の項で述べるように、ボート事業という収益事業が確立するにつれ、使用料収入が相対的に歳

入の多くを占めるようになった。このように水面風致を活かしたボート事業という、行政から自立した確固な収入源を獲得していた¹⁵⁾。又、正確な会員数は不明だが、戦前期はほぼ一定して80人程であったと推測される¹⁶⁾。

(3) 善福寺風致協会の事業

協会が先ず取り組んだ事業は風致枢要部の保全であった。善福寺池は風致地区指定当時には長年の土砂の堆積で水面は僅かで自ずとその名を忘れられている状態であった。風致地区の機能の発揚には先ず第一に池の復旧が必要であった。風致地区指定直後の東京府の風致地区維持改善方法案でも浚渫補助が当初から改善項目に挙げられていた¹⁷⁾。協会は善福寺池水面拡張の基礎調査として設立直後の12月に満水試験を行った。結果は好成绩で、池の周囲7000坪余りを賃借し、5月には土地地形変更願を提出し水面拡張を行い、水面の復旧が行われた。この水面拡張工事は風致地区改善施設事業として東京府との共同で行われた。東京府は協会から提供を受けた周囲の低地にこの浚渫による土砂を盛り土し、野遊場及び道遶道路の基盤とし、昭和11年度には協会は東京府との共同でこの基盤の上に道遶道路を建設し、植樹をした。このように協会設立直後には、東京府との共同で風致地区枢要部の保全事業に取り組んだ。

そしてこれらの事業によって復旧した善福寺池の良好な水質を生かし、鑑賞・釣り等による憩楽効果を狙った

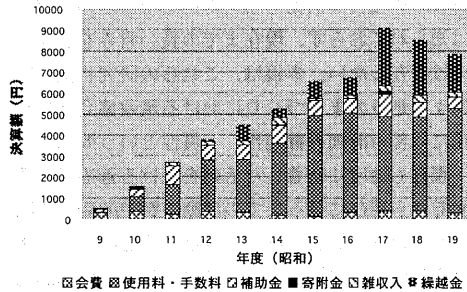


図-1 善福寺風致協会の歳入決算額

表-1 戦前期の善福寺風致協会の事業費内訳と事業概要

年度	事業費合計	施設・設備費	ボート購入・修繕費	養魚費	植樹費	諸経費	その他	事業概要
								(3)より)
昭和9年	281.5	140	0	0	102	0	39.5*1	1.地区内標識建設 2.桜樹植栽 3.水面拡張基礎調査
昭和10年	3106.21	1099.96	1378.6	19.33	0	135.55	463.77*1	1.水面拡張 2.ボート経営 3.ボート小屋/附帯施設建設 4.淡水魚放養 5.照明設備
昭和11年	1143.12	281	112.88	492.05	21	236.19	0	1.道遶路建設/植樹 2.養魚・魚止器設置 3.植樹
昭和12年	1168.62	4.6	395.18	603.31	0	165.53	0	1.休憩所建設 2.ボート購入 3.樹木保護手入 4.座談会 5.道遶路保護手入
昭和13年	1112.8	0	159.8	561.97	0	380.88	10.13*2	1.樹苗購入・無料配布 2.ボート経営 3.稚魚放養 4.座談会 5.新池用地調査
昭和14年	1755.45	0	173.05	764.79	0	170.85	646.76*3	1.新池用地確保・使用契約 2.植樹/ボート経営 3.座談会 4.稚魚放養 5.樹木手入
昭和15年	3011.15	0	1366.96	1471.7	0	162.49	10*2	1.連合協議会共催 2.稚魚放養 3.ボート経営 4.植樹 5.新池用地確保/府へ提供
昭和16年	1729.21	0	679.83	710.87	100	238.51	0	1.ボートハウス新築・経営 2.座談会 3.植樹 4.既存物件手入 5.稚魚放養
昭和17年	3038.69	1297	1305.79	194.5	0	221.4	20*4	1.植樹/ボート経営 2.座談会 3.出征兵士慰問品贈呈 4.稚魚放養 5.水生植物保護
昭和18年	2737.1	711.7	152.28	1661.32	0	211.8	0	1.稚魚手入 2.座談会 3.新池周辺除草 4.ボート経営 5.風致樹保育
昭和19年	296.4	0	266	0	0	30.4	0	平常事業困難のため、専ら既存物の保全に努力

昭和9年度～昭和19年度の「善福寺風致協会歳入歳出決算報告書」より作成 小数点以下は銭単位

*1主に水面拡張費*2宣伝費*3連合協議会開催費*4風致思想普及講演会費

鯉鮒の稚魚放養が、協会の主な事業の一つとなった。

協会は続いて水面のレクリエーションの提供という理由で、収益事業としてのボート経営を目指した。復旧工事と併行して昭和 10 年 4 月には水面使用許可願を提出し、6 月には許可を得、ボートの直営を開始した。ボート経営は収益事業として、そして協会の継続的な活動として重要な事業であったと考えられる。協会は活動の第二段階として経営基盤の確立を目指し、昭和 10 年度以降はボート設備の充実が事業のもう一つの柱となった。

次いで協会が構想したのは新たな風致の創造であった。昭和 11 年の時点ですでに協会は菖蒲園構想を持っていたが、実際に新池用地の調査という形で事業が開始されたのは昭和 13 年度からである。昭和 14 年度から昭和 15 年度にかけて協会は新池用地の確保並びに使用契約を取り付け、その段階で使用権を東京府に委ねた。東京府と協会は水源近くで水温が低いため荒れた田園であった善福寺川沿いの土地を開削し、昭和 18 年までには新池を作りあげた。協会は昭和 17、18 年度の両年にわたり、新池の設備に資金を注いだ。このように風致の創造に関しても協会と東京府との共同で事業は進められた。

又、これらの物的環境や施設の整備以外の活動としては風致思想の普及宣伝が記録されている。昭和 12 年 2 月には東京府風致協会連合会⁽⁷⁾との共催で風致地区思想普及講演会を開催した。農学博士丹羽鼎三、文学博士鳥居龍蔵の講演には千人もの聴衆が集まった。その後も協会は毎年座談会を開催したり、樹苗を各戸に無料配布するなど、東京府による風致地区改善叢書の刊行や東京府風致協会連合会による機関誌『風致』の発行、講演会の開催と連動する形で風致思想の普及を目指したが、実際は物的環境の整備に事業は集中する傾向にあった⁽⁸⁾。

このように、戦前期の協会の活動は、物的環境・施設の整備に関しては、最初に地区の風致の枢要をなす善福寺池を復旧し、その周囲に逍遙道路等を整備し、植樹を行うなど風致の保全に努め、続いてその風致を利用し、

活動財源の基盤としてのボート経営を確立させ、その後新池の造営という形で新たな風致の創造を計ったと考えられる。非常に計画的な事業展開であったと言える。又、一連の事業は、主として協会の用地提供、東京府の施設整備、施設を生かした協会の事業という行政と民間との役割分担の中で進められたと考えられる(図-2)。

しかし、時局が悪化し、東京都の成立による東京府の消滅、都市計画法戦時特例による風致地区取締規程の停止等、風致地区行政の撤退という時代の流れの中、協会も既存施設やボートの運営管理以外の事業は停止せざるをえない状況となった。昭和 19 年度には事業費が激減し、活動は既存施設の保全のみとなり、終戦を迎えた。

(4) 善福寺における風致協会の意味

このような協会の活動は、善福寺の都市整備の中でどのような役割を担っていたのだろうか。

協会の設立の中心となったのは元井荻町長で当時府会議員であった内田秀五郎であった。内田は井荻町長時代から先進的な都市基盤整備を行っていた。内田の都市整備の実績で最も評価されるのは日本で最大規模を誇る井荻土地区画整理事業である。大正 11 年の第一耕地整理組合設立に始まり、昭和 10 年までに、組合長として井荻全域の区画整理を完成させた。設計方針には、地区の風致を一層向上させること、流下する河川とそれがつくり出す地形が醸し出す風致の保全に努めることが挙げられている⁽⁹⁾。これらの設計方針は善福寺地区に於いても、善福寺池周辺とそこから流れ出る善福寺川の沿岸地帯を施行区域外とし、将来の公園化を念頭に現状の形態を残した点、同時に善福寺川の低地に沿った「お成り道」(江戸時代の将軍鷹狩用の道)と呼ばれる歴史的な細道をグリッドを基本とした道路網の中に旧態のまま残し、川沿いの風致を保全した点に現在でも十分に読みとれる。

内田の区画整理事業観、都市計画観は「都市の持つ地理的、歴史的な性格を助長発展せしむべき計画の下に市街地を形成すべきであって、茲に都市計画及びその細部計

画ともいふべき土地区画整理の必要がある⁽¹⁷⁾」というものであり、このような施策が将来的にまちの価値を高めることを力説した。そして「住宅地の造成を目的

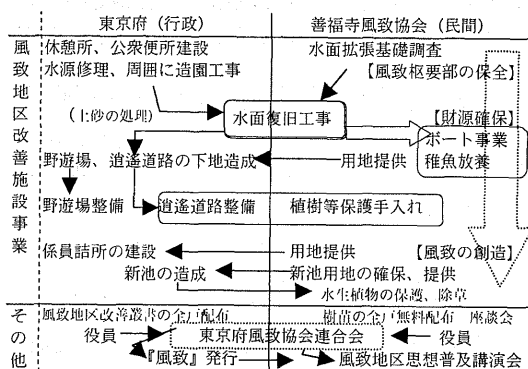


図-2 東京府と善福寺風致協会との相互関係

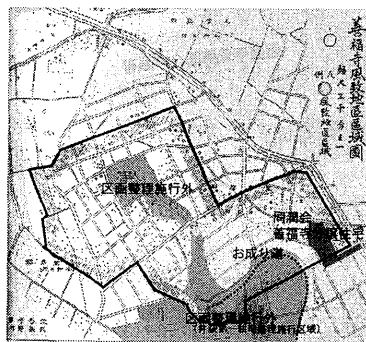


図-3 善福寺風致地区*4) p.16の図面を加工

とする整理によれば、整理前其の地区内に他の地区と異り樹木、池沼等の多く存する時は出来得る限り之を活用するべきであって、整理後に於ける宅地々積の大を欲するの余り不必要に池沼を埋立て樹木を伐採するが如きは、さなきだに自然の風致の失はれ易き都市に於て更に土地区画整理の施行に依って之に拍車をかけ灰色の天地を展開する結果を招来するのであって、決して都市百年の計を樹立する所以ではない。」¹⁷⁾と説いた。内田の説くまちの地理的、歴史的特徴とはまさに風致であったと考えられる。「法律云々の問題より郷土の風景を守ることは私達の義務であり、責任である」¹⁸⁾と広く呼び掛け続けた内田が井荻で行った都市整備は、風致地区指定以前からまちの風致を意識したものであった。内田にとって、区画整理事業は市街化が予想される地域において、その地域の特色を生かした理想的な住宅地を形成するための基盤形成手段であり、風致地区、風致協会は地域の特色を将来に渡り保全し助長させるために必要な、百年の計の完遂ための行政手法、民間組織であったと考えられる。

(5) 東京府の風致地区のモデルとしての善福寺

では善福寺におけるこのような風致地区の都市整備は、東京府にとってどのような意味を持っていたのだろうか。

東京府は風致地区において積極的な改善を計画していた。水谷は、風致地区内の住宅地に対しては、自然に重心を置いた土地区画整理事業を施行し、住宅は風致的な調和を図ることは勿論として、一定の地域を画して美観的統制によって模範となる理想的住宅地を形成するのが理想であるとした¹⁹⁾。善福寺では先に見たように、風致の保全を特徴とした区画整理が行われた上に、昭和7年には、内田ら8名が風致地区内東端の土地を提供し、同潤会善福寺分譲住宅地が建設された。4678坪の敷地に、図案懸賞募集の優秀作等の模範的住宅34戸が立ち並び、自然に囲まれた理想的な郊外住宅地であった²⁰⁾。

又、東京府は風致地区の制限の妥当性を、将来的な住宅地としての価値の上昇によって説いたが、善福寺は実際に風致地区指定が土地会社による分譲地経営を導いた顕著な例であった²⁰⁾。枢要部公園化の点でも、区画整

理を前提とした枢要部の寄付という東京府側の希望を実際に汲み、善福寺では枢要部約一万坪が寄付されている。

このように、善福寺は、東京府の風致地区の理想モデルとして形成されていったと考えられる。理想的住宅地を志した内田と東京府の思想とが重ね合わされた文脈の中に戦前期の善福寺風致協会の活動は位置付けられる。

4. 戦後の善福寺風致協会

(1) 善福寺風致協会の活動

内田秀五郎は昭和19年1月に善福寺風致協会の会長は退いたが、昭和18年12月からは東京都風致協会連合会の会長に就任していた。昭和21年10月に内田は連合会内に風致地区相談所を設け、各地区に支部を置き、風致協会復興の指導に直接あたった。戦時体制下、風致地区規定の停止の影響や食料増産の為の畑地転換によって荒廃した風致地区の現況調査から始め、講演会や座談会、養魚の放流、植樹等の事業を各風致協会と協力して行った。内田は昭和22年5月に公職追放によって一時連合会会長職を退いたが、昭和26年10月には再び会長に復帰し、昭和28年11月までその職にあり、風致行政の復活に先立って、風致協会の復興に努めた²¹⁾。

善福寺風致協会の通常の事業が再開されるのは昭和26年度からである。ここで当初取り組まれたのは、やはり経営基盤の確保としてのボート経営と風致枢要部の保全であった。稚魚放養や腰掛の設置の他、池水の枯渇に対して付近の千川上水からの導水を関係当局や地元区議に積極的に働きかける等の活動を行った。善福寺公園園化の促進に関し陳情や居住者への協力要請を積極的に展開し、風致枢要部の保全に関しては昭和36年6月の都立善福寺公園開園によってひとまずの目的を達した。開園式では内田を始め3人の協会会長経験者がその功績を都知事より表彰された。

昭和33年度以降は新たな事業として家庭緑化に重点を置くようになり、苗木の即売会の開催や無料配布、植物相談を継続的に行うようになった。背景には国土美化運動の隆盛と、それに伴う風致協会自体の復興の気運が

表-2 戦後の善福寺風致協会の主な活動

	昭和20年	昭和25年	昭和30年	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
通常事業停止	＜風致枢要部の保全＞ 【善福寺公園開園/風致地区区域縮小】											
風致地区現況調査	稚魚放養	公園化促進	桜樹植樹	都緑の推進委員								
風致地区相談所開設	枯渇対策(導水陳情)	善福寺池・川浄化事業推進	公園クリーン作戦 講演会									
	＜家庭緑化＞		＜活動の模索＞		＜定款の改定検討＞ 定款の改定							
	苗木の即売	植物相談	組織改革	記念誌発行		マンション建設反対運動						
	無料配布		会員の増強	風致地区緑の保存調査								
	＜風致の創造＞			＜公園活動の展開＞								
	風致の森 造成・植樹			マラソン大会	餅つき大会							
				納涼盆踊り大会	PTA・公園事務所イベントに協力							
	＜収益事業の維持・展開＞											
	ボート経営再開	ボート経営悪化		ボートハウス改装	ボート買換え	ボート経営の悪化						
		善福寺会館の建設・運営		会館取壊し								

3)、4)、7)、18)、21)及び「善福寺風致協会事業報告書」、「善福寺風致協会予算計画書」より作成

あった。洗足風致協会会長岸田豊を会長に東京都風致協会連合会が再び東京都との協力関係のもと、機関誌『風致』⁷⁾を復刊させ、活動の再活性化を図っていた。

善福寺風致協会も昭和39年度には協会の事務所兼貸会議場となる善福寺会館を建設し活動基盤を充実させた。昭和43年度からは家庭緑化に代わり、新たな風致の創造を目的に明治百年記念の植樹運動の一環として「風致の森」造成事業を開始した。戦前期同様、枢要部の保全、活動基盤の確保に続いて、風致の創造を目的とした事業の展開が試みられたと考えられる。

しかし、風致地区内の急激な宅地化を追認する形で昭和38年には区域の見直しが行われ、善福寺風致地区は大幅に縮小された。宅地化の進行は風致枢要部である池、川の汚染をもたらし、ポート事業も収益が落ち込み赤字に転落し、財政は逼迫するようになった。「風致の森」造成事業も当初構想とは違い隔年事業とならざるを得なかった。一方で当時の会長の独裁的な運営、新規会員もなく10名程に減少した会員数という形で組織の疲労が顕著に表出した。昭和40年代には多くの風致協会が実質的に活動を停止し、善福寺風致協会の活動も停滞した。

事務局長の交代等を機に組織を改め、協会が再建態勢に入ったのは昭和50年度からであり、内田の死去と時期が重なる中で再建であった。この年には公園周辺に桜の苗木を植樹する等活動を再活性化させ、会員を募り、30余名まで回復させた。ポート事業は非常に苦しい経営が続いたが、昭和50年代前半よりマラソン大会後援や納涼大会主催といった公園活動を積極的に展開するようになり、PTAや自治会、或いは公園事務所を始めとする関係行政機関といった地域の他団体との協力、交流を深めていった¹¹⁾。平成に入ってから風致地区内の緑の保存程度調査や池畔マンション建設反対運動、都緑の推進委員杉並区委員会への協力などの新たな活動を行う中で、昭和63年度以降定款の全面改定の検討という

形で次回の展望を探り続けた。又、平成10年からは年一回の講演会事業を始め

ている。このように、戦後の協会は活動基盤であるポート事業は維持し続けた上で、

昭和9年～平成10年 善福寺風致協会旧定款	
事業項目	風致地区の保護並びに開発に関し調査研究をなし之が計画を樹立すること
	風致地区内土地の開発事業又は之か助成をなすこと
	建築物又は工作物の建設、土地に関する工事、竹木土石類の採取等に関する相談に応じ又は助言、指導を為すこと
	動物及び植物の保育を為すこと
	風致維持上必要な施設を為し、来遊者の便宜を図ること
	講演会、講和会、座談会等を開催すること
	風致維持並びに土地の開発に関し関係当局の諮問に応じ又は建議をなすこと
会員資格	その他前条の目的を達するに必要なりと認むる事項
	正会員及特別会員の資格
	一、風致地区内に土地若くは家屋を有する者 二、風致地区内に居住する者 三、風致地区に特別の関係を有する者 名誉会員

当初家庭緑化、風致の森造成という形で物理的な環境整備を志向したが、宅地化の進展による緑の減少、地区人口の増加と反比例する形での会員数の減少、協会自体の財政の逼迫という状況で挫折し、その後は地域諸団体との結びつきを強め、公園活動を通じた地域の成熟化、つまりコミュニティーの和合を目的としたソフトな活動へ比重を移していったと考えられる。

(2) 善福寺風致協会の定款の全面改定

最後に現在の協会の方向性や特質を明らかにするため、平成10年1月に認可が下りた新定款²²⁾を分析する¹¹⁾。

改定後も協会の目的自体は「風致地区内に於ける景趣を保育し、風致地区の機能を発揚せしめること」で変わりはないが、事業項目等に以下のような変更点がある。

- ・事業の第一項目に「自然環境の保護、育成」が挙げられたのは、協会が自然保護保全団体としての活動を最重要視してきたことを反映している。設立以来一貫して、公園を中心とした地区枢要部自然環境の保護、育成（稚魚放養や植樹）は活動の一つの柱であり続けている。
- ・事業の第二項目の「保護並びに開発の調査・研究」は、第一項目の事業と密接に関係し、例えば最近の事業では風致地区内の樹木調査がこの項目である。しかし旧定款にあった「計画の樹立」が省かれたことは、行政にも協会にも風致地区の計画が欠落している現況を表している。
- ・事業の第四項目の「建築物等の建設、土地の開発等に関する助言、指導」は改定前の定款からそのまま引き継がれている。これは近隣の反対団体の活動に、都の許認可を受けた公益法人である風致協会が関わったことにより、強く運動が促進された平成5～6年にかけてのマンション建設反対運動の経験が念頭にある。又この運動では、付近の住民の日照被害や開発による緑の伐採といった点で以上に、池畔という立地からくる風致への配慮、つまり景観が争点であり、その決着が建物高の変更であったように、善福寺の風致の意味、環境の意味が改めて

平成10年～ 善福寺風致協会新定款	
事業項目	風致地区内に於ける動植物の保育など自然環境の保護、育成事業を行うこと
	風致地区の保護並びに開発に関する調査研究を行うこと
	講演会、講和会、座談会等の開催事業を行うこと
	建築物工作物の建設、土地の開発に関する造成工事、植物石類の採取等に関し、助言、指導を為すこと
	風致維持並びに土地の開発に関し、関係当局の諮問に応じ、建議を為し、又は促進を図ること
	公園来遊者の便宜を図る為、貸しポート等の事業を行うこと
	その他前条の目的を達するに必要なりと認める事項
会員資格	(1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会する者
	(2) 賛助会員 この法人の趣旨に賛同する団体で理事会に推薦された者
	(3) 名誉会員

図-4 善福寺風致協会新旧定款対応図

問われた。このような運動は風致地区制度を基本とする協会の特性をもって初めて有効になる活動であったと考えられる。その他にも、

・第六項目にポート事業が明記された点や逆に協会が重視している様々な公園活動が明記されず、改定前同様「その他の事項」で処理される点が改定の特徴である。ポート事業に関しては、公園の自主管理にも繋がる活動基盤保持への協会の強い意志が表現された。公園活動に関しては、風致保全とは直接結び付きにくいソフトな活動を全面に出すことが都が難色を示したことが背景にあった。

又、事業内容以外の変更点で注目されるのは、会員資格の変更である。改定前の定款での地縁的な制限が廃され、改定後は会員を広く集めることを目的に、法人を想定した賛助会員が新設された。この変更の直接的な動機、目的はポート事業の収入減からくる財政逼迫、その打開である。前記の事業を遂行するためには実際、協会のより広範な認知、開放性が必要である。地域を志向することは、同時に地域の開放を必要としたと考えられる。

このように定款の改定には昭和50年の再建以降の経験が大きく影響しており、活動の変遷で明らかになった協会の現在の方向性が反映されていると考えられる。

5. 結論

以上、戦前、戦後で次のように記述される善福寺風致協会の活動の変遷とその特質を明らかにした。戦前は風致枢要部の保全から運営基盤の確保、そして新たな風致の創造へといった非常に計画的な事業の展開が見られた。又、それらが東京府との協力関係の中で進められたこと、財源的にはポート事業の収益により自立していたこと、協会の役割が地域の都市整備の大きな流れの上に見出されることが明らかになった。戦後は物的環境としての風致の創造から次第に公園を舞台とした地域内交流活動へと比重が移行していったこと、新定款に協会の現在の方向性、展望が示されていることが明らかになった。

そして、活動の歴史的変遷から次のような評価が可能となる。先ず戦前期の風致協会と東京府との役割分担による事業展開は、行政と民間とのパートナーシップによる都市計画の一つの先駆に位置付けられる。又、戦前期の東京府の風致地区に込められた理想的な郊外住宅地の形成という理念を現在まで引き継ぎ、地域の熟成に関わり続けてきた点で、東京府、内田らが百年の計として残した大きな遺産としても評価される。一方、成熟した地域での住民団体の活動の課題という視点からは、ポート経営による財政的な自立性の維持や、地域諸団体の協力を得た、地域住民の和合を目的とした公園での活動の展開に、現在の風致協会の意義を見出せるのである。

補注

(1) 1)、2)は風致協会と区画整理とを内田秀行部という人物によって結び付けようとしている点で非常に重要な視座提供である。その他にも種田ら(1989)「戦前期における風致地区の概念に関する研究」、道徳雑誌56(5) pp.300-305や袴方訓久(1997)「戦前の東京の風致地区における風致保全の形態とその評価」、ランドスケープ研究60(5) pp.451-454等で風致協会の活動が紹介され、分析されているが、何れも各風致協会の活動の変遷や現存に到達する地縁的ハースクティブは示されていない。

(2) 東京府の第三次指定の8地区全てに計9つの風致協会が設立された(川崎臨海風致協会と多摩川風致協会からの分離)。しかし7協会が既に解散している。

協会名	設立許可年月日	解散年月日
江戸川風致協会	昭和17年12月26日	昭和46年10月9日
石神井風致協会	昭和18年7月12日	平成11年11月12日
洗心風致協会	昭和18年7月12日	現在も活動中
大塚風致協会	昭和18年8月24日	昭和54年12月10日
和田川風致協会	昭和18年8月30日	昭和59年2月13日(仮定)
多摩川風致協会	昭和19年1月12日	昭和59年7月21日(仮定)
善福寺風致協会	昭和19年10月2日	現在も活動中
野方風致協会	昭和10年8月	昭和59年3月19日(仮定)
川崎臨海風致協会	昭和13年11月5日	昭和59年4月11日(仮定)

(3) 水谷の風致地区計画に関する考え方は(13)にまとめられている。この論議は風致地区改定後の資料として風致地区の内容に無関係に示されていることから、風致地区計画に関する東京府の公式の見解と見なすことができる。又、第一次指定の風致地区で洗心池、石神井の二ヶ所地、善福寺の善福寺地、江戸川の小倉浦と地内の風致の中心が明確に認識されていたことが「単一の各地域の紹介文から分かる。この中心付近を本稿では枢要部と呼ぶ。

(4) 内田秀行部(15)で、風致地区に対する府の方針を「風致維持管理用地」と「新たな理想住宅地」であるとし、風致地区はそれぞれの方針に対し「風致地区維持改善事業」に協力し、指針に従って府が土地を確保して有形無形の負担という役割を担ってきたとしている。

(5) 現在も活動している洗心風致協会、昭和60年頃まで活動を続けた石神井風致協会、そして善福寺風致協会に通ずるのはポート事業という自立的な収入源を確立していたことである。その他の風致協会が有効な活動を行えずに消滅していったのは、このような自立的財源を持っていなかったか、あるいは再開発の地価騰貴、宅地化等によって失ったことが大きな要因であったと考えられる。但し、水田前田川の土岸や各地の宅地化により、善福寺風致協会のポート事業も現在では赤字が懸念されている。

(6) 戦前期の正会員数計31人で正会員費を算除し損割額とした。予算額計昭和9~13年間で240円、昭和14年昭和200円(昭和15年のみ100円)となっている。

(7) 昭和10年3月に設立された風致協会の連合組織。会長には府知事、役員には各風致協会役員及び東京府土木部の職員が就いた。予算も各風致協会の分担と東京府補助金が半で、東京府と各風致協会の共同の連合組織として、機関誌「風致」の発行等の事業を行なった。

(8) 善福寺風致協会の事業費としては、昭和12年昭和19年昭和20年昭和21年昭和22年昭和23年昭和24年昭和25年昭和26年昭和27年昭和28年昭和29年昭和30年昭和31年昭和32年昭和33年昭和34年昭和35年昭和36年昭和37年昭和38年昭和39年昭和40年昭和41年昭和42年昭和43年昭和44年昭和45年昭和46年昭和47年昭和48年昭和49年昭和50年昭和51年昭和52年昭和53年昭和54年昭和55年昭和56年昭和57年昭和58年昭和59年昭和60年昭和61年昭和62年昭和63年昭和64年昭和65年昭和66年昭和67年昭和68年昭和69年昭和70年昭和71年昭和72年昭和73年昭和74年昭和75年昭和76年昭和77年昭和78年昭和79年昭和80年昭和81年昭和82年昭和83年昭和84年昭和85年昭和86年昭和87年昭和88年昭和89年昭 and 90年昭 and 91年昭 and 92年昭 and 93年昭 and 94年昭 and 95年昭 and 96年昭 and 97年昭 and 98年昭 and 99年昭 and 100年昭 and 101年昭 and 102年昭 and 103年昭 and 104年昭 and 105年昭 and 106年昭 and 107年昭 and 108年昭 and 109年昭 and 110年昭 and 111年昭 and 112年昭 and 113年昭 and 114年昭 and 115年昭 and 116年昭 and 117年昭 and 118年昭 and 119年昭 and 120年昭 and 121年昭 and 122年昭 and 123年昭 and 124年昭 and 125年昭 and 126年昭 and 127年昭 and 128年昭 and 129年昭 and 130年昭 and 131年昭 and 132年昭 and 133年昭 and 134年昭 and 135年昭 and 136年昭 and 137年昭 and 138年昭 and 139年昭 and 140年昭 and 141年昭 and 142年昭 and 143年昭 and 144年昭 and 145年昭 and 146年昭 and 147年昭 and 148年昭 and 149年昭 and 150年昭 and 151年昭 and 152年昭 and 153年昭 and 154年昭 and 155年昭 and 156年昭 and 157年昭 and 158年昭 and 159年昭 and 160年昭 and 161年昭 and 162年昭 and 163年昭 and 164年昭 and 165年昭 and 166年昭 and 167年昭 and 168年昭 and 169年昭 and 170年昭 and 171年昭 and 172年昭 and 173年昭 and 174年昭 and 175年昭 and 176年昭 and 177年昭 and 178年昭 and 179年昭 and 180年昭 and 181年昭 and 182年昭 and 183年昭 and 184年昭 and 185年昭 and 186年昭 and 187年昭 and 188年昭 and 189年昭 and 190年昭 and 191年昭 and 192年昭 and 193年昭 and 194年昭 and 195年昭 and 196年昭 and 197年昭 and 198年昭 and 199年昭 and 200年昭 and 201年昭 and 202年昭 and 203年昭 and 204年昭 and 205年昭 and 206年昭 and 207年昭 and 208年昭 and 209年昭 and 210年昭 and 211年昭 and 212年昭 and 213年昭 and 214年昭 and 215年昭 and 216年昭 and 217年昭 and 218年昭 and 219年昭 and 220年昭 and 221年昭 and 222年昭 and 223年昭 and 224年昭 and 225年昭 and 226年昭 and 227年昭 and 228年昭 and 229年昭 and 230年昭 and 231年昭 and 232年昭 and 233年昭 and 234年昭 and 235年昭 and 236年昭 and 237年昭 and 238年昭 and 239年昭 and 240年昭 and 241年昭 and 242年昭 and 243年昭 and 244年昭 and 245年昭 and 246年昭 and 247年昭 and 248年昭 and 249年昭 and 250年昭 and 251年昭 and 252年昭 and 253年昭 and 254年昭 and 255年昭 and 256年昭 and 257年昭 and 258年昭 and 259年昭 and 260年昭 and 261年昭 and 262年昭 and 263年昭 and 264年昭 and 265年昭 and 266年昭 and 267年昭 and 268年昭 and 269年昭 and 270年昭 and 271年昭 and 272年昭 and 273年昭 and 274年昭 and 275年昭 and 276年昭 and 277年昭 and 278年昭 and 279年昭 and 280年昭 and 281年昭 and 282年昭 and 283年昭 and 284年昭 and 285年昭 and 286年昭 and 287年昭 and 288年昭 and 289年昭 and 290年昭 and 291年昭 and 292年昭 and 293年昭 and 294年昭 and 295年昭 and 296年昭 and 297年昭 and 298年昭 and 299年昭 and 300年昭 and 301年昭 and 302年昭 and 303年昭 and 304年昭 and 305年昭 and 306年昭 and 307年昭 and 308年昭 and 309年昭 and 310年昭 and 311年昭 and 312年昭 and 313年昭 and 314年昭 and 315年昭 and 316年昭 and 317年昭 and 318年昭 and 319年昭 and 320年昭 and 321年昭 and 322年昭 and 323年昭 and 324年昭 and 325年昭 and 326年昭 and 327年昭 and 328年昭 and 329年昭 and 330年昭 and 331年昭 and 332年昭 and 333年昭 and 334年昭 and 335年昭 and 336年昭 and 337年昭 and 338年昭 and 339年昭 and 340年昭 and 341年昭 and 342年昭 and 343年昭 and 344年昭 and 345年昭 and 346年昭 and 347年昭 and 348年昭 and 349年昭 and 350年昭 and 351年昭 and 352年昭 and 353年昭 and 354年昭 and 355年昭 and 356年昭 and 357年昭 and 358年昭 and 359年昭 and 360年昭 and 361年昭 and 362年昭 and 363年昭 and 364年昭 and 365年昭 and 366年昭 and 367年昭 and 368年昭 and 369年昭 and 370年昭 and 371年昭 and 372年昭 and 373年昭 and 374年昭 and 375年昭 and 376年昭 and 377年昭 and 378年昭 and 379年昭 and 380年昭 and 381年昭 and 382年昭 and 383年昭 and 384年昭 and 385年昭 and 386年昭 and 387年昭 and 388年昭 and 389年昭 and 390年昭 and 391年昭 and 392年昭 and 393年昭 and 394年昭 and 395年昭 and 396年昭 and 397年昭 and 398年昭 and 399年昭 and 400年昭 and 401年昭 and 402年昭 and 403年昭 and 404年昭 and 405年昭 and 406年昭 and 407年昭 and 408年昭 and 409年昭 and 410年昭 and 411年昭 and 412年昭 and 413年昭 and 414年昭 and 415年昭 and 416年昭 and 417年昭 and 418年昭 and 419年昭 and 420年昭 and 421年昭 and 422年昭 and 423年昭 and 424年昭 and 425年昭 and 426年昭 and 427年昭 and 428年昭 and 429年昭 and 430年昭 and 431年昭 and 432年昭 and 433年昭 and 434年昭 and 435年昭 and 436年昭 and 437年昭 and 438年昭 and 439年昭 and 440年昭 and 441年昭 and 442年昭 and 443年昭 and 444年昭 and 445年昭 and 446年昭 and 447年昭 and 448年昭 and 449年昭 and 450年昭 and 451年昭 and 452年昭 and 453年昭 and 454年昭 and 455年昭 and 456年昭 and 457年昭 and 458年昭 and 459年昭 and 460年昭 and 461年昭 and 462年昭 and 463年昭 and 464年昭 and 465年昭 and 466年昭 and 467年昭 and 468年昭 and 469年昭 and 470年昭 and 471年昭 and 472年昭 and 473年昭 and 474年昭 and 475年昭 and 476年昭 and 477年昭 and 478年昭 and 479年昭 and 480年昭 and 481年昭 and 482年昭 and 483年昭 and 484年昭 and 485年昭 and 486年昭 and 487年昭 and 488年昭 and 489年昭 and 490年昭 and 491年昭 and 492年昭 and 493年昭 and 494年昭 and 495年昭 and 496年昭 and 497年昭 and 498年昭 and 499年昭 and 500年昭 and 501年昭 and 502年昭 and 503年昭 and 504年昭 and 505年昭 and 506年昭 and 507年昭 and 508年昭 and 509年昭 and 510年昭 and 511年昭 and 512年昭 and 513年昭 and 514年昭 and 515年昭 and 516年昭 and 517年昭 and 518年昭 and 519年昭 and 520年昭 and 521年昭 and 522年昭 and 523年昭 and 524年昭 and 525年昭 and 526年昭 and 527年昭 and 528年昭 and 529年昭 and 530年昭 and 531年昭 and 532年昭 and 533年昭 and 534年昭 and 535年昭 and 536年昭 and 537年昭 and 538年昭 and 539年昭 and 540年昭 and 541年昭 and 542年昭 and 543年昭 and 544年昭 and 545年昭 and 546年昭 and 547年昭 and 548年昭 and 549年昭 and 550年昭 and 551年昭 and 552年昭 and 553年昭 and 554年昭 and 555年昭 and 556年昭 and 557年昭 and 558年昭 and 559年昭 and 560年昭 and 561年昭 and 562年昭 and 563年昭 and 564年昭 and 565年昭 and 566年昭 and 567年昭 and 568年昭 and 569年昭 and 570年昭 and 571年昭 and 572年昭 and 573年昭 and 574年昭 and 575年昭 and 576年昭 and 577年昭 and 578年昭 and 579年昭 and 580年昭 and 581年昭 and 582年昭 and 583年昭 and 584年昭 and 585年昭 and 586年昭 and 587年昭 and 588年昭 and 589年昭 and 590年昭 and 591年昭 and 592年昭 and 593年昭 and 594年昭 and 595年昭 and 596年昭 and 597年昭 and 598年昭 and 599年昭 and 600年昭 and 601年昭 and 602年昭 and 603年昭 and 604年昭 and 605年昭 and 606年昭 and 607年昭 and 608年昭 and 609年昭 and 610年昭 and 611年昭 and 612年昭 and 613年昭 and 614年昭 and 615年昭 and 616年昭 and 617年昭 and 618年昭 and 619年昭 and 620年昭 and 621年昭 and 622年昭 and 623年昭 and 624年昭 and 625年昭 and 626年昭 and 627年昭 and 628年昭 and 629年昭 and 630年昭 and 631年昭 and 632年昭 and 633年昭 and 634年昭 and 635年昭 and 636年昭 and 637年昭 and 638年昭 and 639年昭 and 640年昭 and 641年昭 and 642年昭 and 643年昭 and 644年昭 and 645年昭 and 646年昭 and 647年昭 and 648年昭 and 649年昭 and 650年昭 and 651年昭 and 652年昭 and 653年昭 and 654年昭 and 655年昭 and 656年昭 and 657年昭 and 658年昭 and 659年昭 and 660年昭 and 661年昭 and 662年昭 and 663年昭 and 664年昭 and 665年昭 and 666年昭 and 667年昭 and 668年昭 and 669年昭 and 670年昭 and 671年昭 and 672年昭 and 673年昭 and 674年昭 and 675年昭 and 676年昭 and 677年昭 and 678年昭 and 679年昭 and 680年昭 and 681年昭 and 682年昭 and 683年昭 and 684年昭 and 685年昭 and 686年昭 and 687年昭 and 688年昭 and 689年昭 and 690年昭 and 691年昭 and 692年昭 and 693年昭 and 694年昭 and 695年昭 and 696年昭 and 697年昭 and 698年昭 and 699年昭 and 700年昭 and 701年昭 and 702年昭 and 703年昭 and 704年昭 and 705年昭 and 706年昭 and 707年昭 and 708年昭 and 709年昭 and 710年昭 and 711年昭 and 712年昭 and 713年昭 and 714年昭 and 715年昭 and 716年昭 and 717年昭 and 718年昭 and 719年昭 and 720年昭 and 721年昭 and 722年昭 and 723年昭 and 724年昭 and 725年昭 and 726年昭 and 727年昭 and 728年昭 and 729年昭 and 730年昭 and 731年昭 and 732年昭 and 733年昭 and 734年昭 and 735年昭 and 736年昭 and 737年昭 and 738年昭 and 739年昭 and 740年昭 and 741年昭 and 742年昭 and 743年昭 and 744年昭 and 745年昭 and 746年昭 and 747年昭 and 748年昭 and 749年昭 and 750年昭 and 751年昭 and 752年昭 and 753年昭 and 754年昭 and 755年昭 and 756年昭 and 757年昭 and 758年昭 and 759年昭 and 760年昭 and 761年昭 and 762年昭 and 763年昭 and 764年昭 and 765年昭 and 766年昭 and 767年昭 and 768年昭 and 769年昭 and 770年昭 and 771年昭 and 772年昭 and 773年昭 and 774年昭 and 775年昭 and 776年昭 and 777年昭 and 778年昭 and 779年昭 and 780年昭 and 781年昭 and 782年昭 and 783年昭 and 784年昭 and 785年昭 and 786年昭 and 787年昭 and 788年昭 and 789年昭 and 790年昭 and 791年昭 and 792年昭 and 793年昭 and 794年昭 and 795年昭 and 796年昭 and 797年昭 and 798年昭 and 799年昭 and 800年昭 and 801年昭 and 802年昭 and 803年昭 and 804年昭 and 805年昭 and 806年昭 and 807年昭 and 808年昭 and 809年昭 and 810年昭 and 811年昭 and 812年昭 and 813年昭 and 814年昭 and 815年昭 and 816年昭 and 817年昭 and 818年昭 and 819年昭 and 820年昭 and 821年昭 and 822年昭 and 823年昭 and 824年昭 and 825年昭 and 826年昭 and 827年昭 and 828年昭 and 829年昭 and 830年昭 and 831年昭 and 832年昭 and 833年昭 and 834年昭 and 835年昭 and 836年昭 and 837年昭 and 838年昭 and 839年昭 and 840年昭 and 841年昭 and 842年昭 and 843年昭 and 844年昭 and 845年昭 and 846年昭 and 847年昭 and 848年昭 and 849年昭 and 850年昭 and 851年昭 and 852年昭 and 853年昭 and 854年昭 and 855年昭 and 856年昭 and 857年昭 and 858年昭 and 859年昭 and 860年昭 and 861年昭 and 862年昭 and 863年昭 and 864年昭 and 865年昭 and 866年昭 and 867年昭 and 868年昭 and 869年昭 and 870年昭 and 871年昭 and 872年昭 and 873年昭 and 874年昭 and 875年昭 and 876年昭 and 877年昭 and 878年昭 and 879年昭 and 880年昭 and 881年昭 and 882年昭 and 883年昭 and 884年昭 and 885年昭 and 886年昭 and 887年昭 and 888年昭 and 889年昭 and 890年昭 and 891年昭 and 892年昭 and 893年昭 and 894年昭 and 895年昭 and 896年昭 and 897年昭 and 898年昭 and 899年昭 and 900年昭 and 901年昭 and 902年昭 and 903年昭 and 904年昭 and 905年昭 and 906年昭 and 907年昭 and 908年昭 and 909年昭 and 910年昭 and 911年昭 and 912年昭 and 913年昭 and 914年昭 and 915年昭 and 916年昭 and 917年昭 and 918年昭 and 919年昭 and 920年昭 and 921年昭 and 922年昭 and 923年昭 and 924年昭 and 925年昭 and 926年昭 and 927年昭 and 928年昭 and 929年昭 and 930年昭 and 931年昭 and 932年昭 and 933年昭 and 934年昭 and 935年昭 and 936年昭 and 937年昭 and 938年昭 and 939年昭 and 940年昭 and 941年昭 and 942年昭 and 943年昭 and 944年昭 and 945年昭 and 946年昭 and 947年昭 and 948年昭 and 949年昭 and 950年昭 and 951年昭 and 952年昭 and 953年昭 and 954年昭 and 955年昭 and 956年昭 and 957年昭 and 958年昭 and 959年昭 and 960年昭 and 961年昭 and 962年昭 and 963年昭 and 964年昭 and 965年昭 and 966年昭 and 967年昭 and 968年昭 and 969年昭 and 970年昭 and 971年昭 and 972年昭 and 973年昭 and 974年昭 and 975年昭 and 976年昭 and 977年昭 and 978年昭 and 979年昭 and 980年昭 and 981年昭 and 982年昭 and 983年昭 and 984年昭 and 985年昭 and 986年昭 and 987年昭 and 988年昭 and 989年昭 and 990年昭 and 991年昭 and 992年昭 and 993年昭 and 994年昭 and 995年昭 and 996年昭 and 997年昭 and 998年昭 and 999年昭 and 1000年昭 and 1001年昭 and 1002年昭 and 1003年昭 and 1004年昭 and 1005年昭 and 1006年昭 and 1007年昭 and 1008年昭 and 1009年昭 and 1010年昭 and 1011年昭 and 1012年昭 and 1013年昭 and 1014年昭 and 1015年昭 and 1016年昭 and 1017年昭 and 1018年昭 and 1019年昭 and 1020年昭 and 1021年昭 and 1022年昭 and 1023年昭 and 1024年昭 and 1025年昭 and 1026年昭 and 1027年昭 and 1028年昭 and 1029年昭 and 1030年昭 and 1031年昭 and 1032年昭 and 1033年昭 and 1034年昭 and 1035年昭 and 1036年昭 and 1037年昭 and 1038年昭 and 1039年昭 and 1040年昭 and 1041年昭 and 1042年昭 and 1043年昭 and 1044年昭 and 1045年昭 and 1046年昭 and 1047年昭 and 1048年昭 and 1049年昭 and 1050年昭 and 1051年昭 and 1052年昭 and 1053年昭 and 1054年昭 and 1055年昭 and 1056年昭 and 1057年昭 and 1058年昭 and 1059年昭 and 1060年昭 and 1061年昭 and 1062年昭 and 1063年昭 and 1064年昭 and 1065年昭 and 1066年昭 and 1067年昭 and 1068年昭 and 1069年昭 and 1070年昭 and 1071年昭 and 1072年昭 and 1073年昭 and 1074年昭 and 1075年昭 and 1076年昭 and 1077年昭 and 1078年昭 and 1079年昭 and 1080年昭 and 1081年昭 and 1082年昭 and 1083年昭 and 1084年昭 and 1085年昭 and 1086年昭 and 1087年昭 and 1088年昭 and 1089年昭 and 1090年昭 and 1091年昭 and 1092年昭 and 1093年昭 and 1094年昭 and 1095年昭 and 1096年昭 and 1097年昭 and 1098年昭 and 1099年昭 and 1100年昭 and 1101年昭 and 1102年昭 and 1103年昭 and 1104年昭 and 1105年昭 and 1106年昭 and 1107年昭 and 1108年昭 and 1109年昭 and 1110年昭 and 1111年昭 and 1112年昭 and 1113年昭 and 1114年昭 and 1115年昭 and 1116年昭 and 1117年昭 and 1118年昭 and 1119年昭 and 1120年昭 and 1121年昭 and 1122年昭 and 1123年昭 and 1124年昭 and 1125年昭 and 1126年昭 and 1127年昭 and 1128年昭 and 1129年昭 and 1130年昭 and 1131年昭 and 1132年昭 and 1133年昭 and 1134年昭 and 1135年昭 and 1136年昭 and 1137年昭 and 1138年昭 and 1139年昭 and 1140年昭 and 1141年昭 and 1142年昭 and 1143年昭 and 1144年昭 and 1145年昭 and 1146年昭 and 1147年昭 and 1148年昭 and 1149年昭 and 1150年昭 and 1151年昭 and 1152年昭 and 1153年昭 and 1154年昭 and 1155年昭 and 1156年昭 and 1157年昭 and 1158年昭 and 1159年昭 and 1160年昭 and 1161年昭 and 1162年昭 and 1163年昭 and 1164年昭 and 1165年昭 and 1166年昭 and 1167年昭 and 1168年昭 and 1169年昭 and 1170年昭 and 1171年昭 and 1172年昭 and 1173年昭 and 1174年昭 and 1175年昭 and 1176年昭 and 1177年昭 and 1178年昭 and 1179年昭 and 1180年昭 and 1181年昭 and 1182年昭 and 1183年昭 and 1184年昭 and 1185年昭 and 1186年昭 and 1187年昭 and 1188年昭 and 1189年昭 and 1190年昭 and 1191年昭 and 1192年昭 and 1193年昭 and 1194年昭 and 1195年昭 and 1196年昭 and 1197年昭 and 1198年昭 and 1199年昭 and 1200年昭 and 1201年昭 and 1202年昭 and 1203年昭 and 1204年昭 and 1205年昭 and 1206年昭 and 1207年昭 and 1208年昭 and 1209年昭 and 1210年昭 and 1211年昭 and 1212年昭 and 1213年昭 and 1214年昭 and 1215年昭 and 1216年昭 and 1217年昭 and 1218年昭 and 1219年昭 and 1220年昭 and 1221年昭 and 1222年昭 and 1223年昭 and 1224年昭 and 1225年昭 and 1226年昭 and 1227年昭 and 1228年昭 and 1229年昭 and 1230年昭 and 1231年昭 and 1232年昭 and 1233年昭 and 1234年昭 and 1235年昭 and 1236年昭 and 1237年昭 and 1238年昭 and 1239年昭 and 1240年昭 and 1241年昭 and 1242年昭 and 1243年昭 and 1244年昭 and 1245年昭 and 1246年昭 and 1247年昭 and 1248年昭 and 1249年昭 and 1250年昭 and 1251年昭 and 1252年昭 and 1253年昭 and 1254年昭 and 1255年昭 and 1256年昭 and 1257年昭 and 1258年昭 and 1259年昭 and 1260年昭 and 1261年昭 and 1262年昭 and 1263年昭 and 1264年昭 and 1265年昭 and 1266年昭 and 1267年昭 and 1268年昭 and 1269年昭 and 1270年昭 and 1271年昭 and 1272年昭 and 1273年昭 and 1274年昭 and 1275年昭 and 1276年昭 and 1277年昭 and 1278年昭 and 1279年昭 and 1280年昭 and 1281年昭 and 1282年昭 and 1283年昭 and 1284年昭 and 1285年昭 and 1286年昭 and 1287年昭 and 1288年昭 and 1289年昭 and 1290年昭 and 1291年昭 and 1292年昭 and 1293年昭 and 1294年昭 and 1295年昭 and 1296年昭 and 1297年昭 and 1298年昭 and 1299年昭 and 1300年昭 and 1301年昭 and 1302年昭 and 1303年昭 and 1304年昭 and 1305年昭 and 1306年昭 and 1307年昭 and 1308年昭 and 1309年昭 and 1310年昭 and 1311年昭 and 1312年昭 and 1313年昭 and 1314年昭 and 1315年昭 and 1316年昭 and 1317年昭 and 1318年昭 and 1319年昭 and 1320年昭 and 1321年昭 and 1322年昭 and 1323年昭 and 1324年昭 and 1325年昭 and 1326年昭 and 1327年昭 and 1328年昭 and 1329年昭 and 1330年昭 and 1331年昭 and 1332年昭 and 1333年昭 and 1334年昭 and 1335年昭 and 1336年昭 and 1337年昭 and 1338年昭 and 1339年昭 and 1340年昭 and 1341年昭 and 1342年昭 and 1343年昭 and 1344年昭 and 1345年昭 and 1346年昭 and 1347年昭 and 1348年昭 and 1349年昭 and 1350年昭 and 1351年昭 and 1352年昭 and 1353年昭 and 1354年昭 and 1355年昭 and 1356年昭 and 1357年昭 and 1358年昭 and 1359年昭 and 1360年昭 and 1361年昭 and 1362年昭 and 1363年昭 and 1364年昭 and 1365年昭 and 1366年昭 and 1367年昭 and 1368年昭 and 1369年昭 and 1370年昭 and 1371年昭 and 1372年昭 and 1373年昭 and 1374年昭 and 1375年昭 and 1376年昭 and 1377年昭 and 1378年昭 and 1379年昭 and 1380年昭 and 1381年昭 and 1382年昭 and 1383年昭 and 1384年昭 and 1385年昭 and 1386年昭 and 1387年昭 and 1388年昭 and 1389年昭 and 1390年昭 and 1391年昭 and 1392年昭 and 1393年昭 and 1394年昭 and 1395年昭 and 1396年昭 and 1397年昭 and 1398年昭 and 1399年昭 and 1400年昭 and 1401年昭 and 1402年昭 and 1403年昭 and 1404年昭 and 1405年昭 and